

最古の一日造立仏

わずか一日で彫り上げられた
祈りの十一面観音

乙訓寺

重要文化財
特別公開

幽愁の毘沙門天

平安の美を
今に伝える



令和6年(2024)

11.16(土) → 12.8(日) 真言宗 乙訓寺 本堂・毘沙門堂

拝観時間 午前9時30分～午後4時 拝観料 1,000円(高校生以上) ※解説パンフレット付

主催:乙訓寺 協力:長岡京市観光協会

真言宗 乙訓寺 〒617-0814 京都府長岡京市今里3-14-7 ☎075-951-5759 <https://otokunidera.jimdosite.com/>

【電車でのアクセス】・JR京阪線「長岡京駅」・阪急京都線「長岡天神駅」から
阪急バス「業師堂」下車、徒歩約5分

【車でのアクセス】・京都市営バス「長岡京IC」から約7分

紅葉の名所 光明寺から徒歩約15分・長岡天満宮から徒歩約20分

重要文化財 ①

木造十一面観音立像

木造 素地 像高181.8cm 鎌倉時代 文永5年(1268)

最古の一日造立仏

乙訓寺の「木造十一面観音立像」が令和5年6月、国の重要文化財に指定されました。解体修理の際に、仏像内から200点以上におよぶ大量の文書が発見され、この像が「一日造立仏」として文永5年(1268)に制作されたことがわかりました。

「一日造立仏」とは、雨乞いや疫病消除を祈願して一日のうち制作し、造立供養まで行うもので、鎌倉時代に興福寺で盛んに行われました。一日造立仏として制作されたことが明らかな仏像は3例しかなく、中でも最古の例であることが明らかになりました。

彫り口が語る造立の軌跡

右手に錫杖、左手に華瓶を持つ長谷寺式十一面観音像。全体的に簡略な彫り口で、時間の制約から、部材ごとに分業で制作し、最後に組み上げられたとみられています。顔は非常に細かい刀目で入念に仕上げているのに対し、他の箇所は粗めの刀目で仕上げられています。

重要文化財 ②

毘沙門天立像

木造 彩色・鍍金・鍍銀 像高101.7cm 平安時代(12世紀)

平安の美を伝える憂いの毘沙門天

制作当時の彩色や細い線状に切った金箔を貼り付ける鍍金模様がよく残り、模様の種類の高さや顔料の質の高さ、模様を施す技術の高さなどが評価されています。金をふんだんに使った鍍金は他に例がないほどの豪華さ。

毘沙門天は、北方の守護神で、邪鬼を踏みつけ、激しい怒りの表情を浮かべることが一般的ですが、この像は眉をひそめ、やや左に顔を向け、物憂げな表情を浮かべています。



200点を越える文書が仏像内から発見された



憂いを帯びた表情 制作当時の彩色や鍍金が残る



乙訓寺

大慈山乙訓寺

推古天皇の勅願、聖徳太子の創建と伝わる古刹。桓武天皇が長岡京へ遷都した翌年、藤原種継暗殺事件に関連して弟の早良親王が幽閉された。空海が別当を務め、最澄と初めて出会った。江戸時代に護持院隆光が、5代将軍徳川綱吉やその母将杜昌院らの援助を受けて再興した。牡丹の名所。

新しい京都に会える

京都西山 長岡京
もみじめぐり



光明寺
11.16 - 12.8



柳谷観音湯谷寺
11.16(土) - 12.1(日)



長岡天満宮
11.16(土) - 12.1(日)

